

2016年度医療安全分科会に参加して

済生会横浜市東部病院医療安全管理室診療放射線技師

佐藤 達



会場風景

私は診療放射線技師ですが、日本医療マネジメント学会学術総会に参加したのを機に、学会会員となりこのような分科会があることを知り、これで3回目の参加となりました。これまでも参加していたであろうと思われる方のお顔もあり、複数回参加することの意義はあるものだと思っております。そして、今回も坂本師長(とお書きしてよいのかどうか・・・)の白衣姿を知っている私は、ここで師長のお元気な姿を見ることが、密かな楽しみにもなっております。

今回もプログラムは2日間にわたる濃厚なものとなっており、恒例となる長谷川先生の講義がプロローグとなり、最近のトピックスと医療安全管理者としての必要なスキルに繋がるリソース講演、厚労省の方による政策講演、そして2つのワークショップ「医療安全の悩み、やりがい、そしてその未来」と、私のグループで課題として「安全な造影検査を行うために」の検討を行いました。というも私以外のメンバーは皆、ベテラン医療安全管理者や副看護部長といった経験豊富な看護師の方々であったので、気を使っていたいた感もあるのですが、2014年に起きた造影剤誤投与の事件もあり、自院ではどのように防止策を立案するかを検査オーダ発生から時系列で各職種のフローを振り返り、各場面で検討をしました。(ただ、時間の都合上、充分な話し合いが出来なかったのが悔やまれます。)

今回の分科会は「再度原点に戻ろう」という事でした。医療安全元年より17年が経過し、患者の意識も高まり、個人の力からシステムで事故を防ぐことであったが、システムでの対応も未知のものも存在します。医療安全の潮流が少しずつ変化してきているので、院内の文化、システムの変化で考え直す(というほどの経験はないのですが)良い機会となりました。ありがとうございました。

2016年度医療安全分科会に参加して

東邦大学医療センター大森病院医療安全管理部看護師長補佐

内藤智子

今回初めて参加させていただきました。本分科会には、講演内容、話題提供の他、多施設の医療安全管理者たちとのワークショップが企画されていたので、学

会・他研修とは一味違う刺激や、違う角度で医療安全を考えさせてくれるのではないかと期待して参加しました。

中でも、メタマネジメントという概念・手法や、医療安全モニタリング情報システムについて新しい知識を得ることができました。医療安全ピラミッド理論を反映した新しい医療安全情報システムでは、インシデント・アクシデントレベルと累積件数他を使って医療安全管理水準のモニタリングができること、さらに医療安全のリスクの規模と危険度を同時に表現できるということに、興味を持ってました。当院が職員へ示しているデータが、今以上に分かり易く介入し易くなるヒントを得たように思います。

また、講習中「医療安全管理者の交代によって引き継がれていること、いないことがよい方向であること」との話がありました。当院では2代目の部長・副部長が5年以上役割を發揮しており、継続や新規で改善することを選択し管理業務を遂行できている状況です。しかし、新しく役割を担い始めた方や、まだ体制が確立していない等課題を持っている方々と意見交換し、当院の医療安全の築かれた管理体制を引き継ぐこと、この業務経験を他部署でも活かす使命を再認識する機会となりました。

今回の分科会で多くの学びや気づきを得ることができたことを感謝いたします。

支部学術集会開催報告

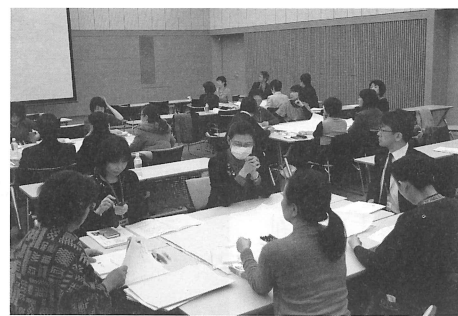
第12回広島支部学術集会

学術集会会長：中国電力(株)中電病院病院長 岩森 洋

2016年8月27日(土)、新築された広島県医師会館において、日本医療マネジメント学会第12回広島支部の学術集会を開催しました。今回のテーマは「医療安全」と「医療事故調査制度」とし、126名の参加を頂きました。

医療安全に関しては、パネルディスカッション形式で「医療の安全活動の現状と課題」について、4施設のリスクマネジャーの方から日頃の取り組みを紹介頂いた後、討議を進めました。参考となる他施設の取り組みや共通した課題が明らかとなり、今後のリスクマネジャーの活動に参考となる発表でありました。

また、医療調査制度の取り組みに関して、東邦大学医学部教授の長谷川 友紀先生を講師にお招きし、「医療



会場風景